

名古屋市守山区社会福祉協議会

手話体験

聴覚障がい者お話し会



お申し込み～実施の流れ

①実施希望の2ヶ月前までに守山区社会福祉協議会へお申し込みください。

※希望日を第3希望まで忘れずにご記入ください。

住所：〒463-0048 名古屋市守山区小幡南一丁目24番10号

TEL：052-758-2011 FAX：052-758-2015

②講師と一緒に学習内容等の打合せをします。

守山区内で活動する「手話サークル龍の手」のメンバーである、
聾者・手話通訳者各2名、計4名の講師で伺うケースが多いです。

打ち合わせ日時の希望を申込用紙にお忘れ無くご記入ください。

(社会福祉協議会が、各協力者との打合せ日を調整します)

③体験・お話会 実施(例)

聴覚障がい当事者によるお話会

* 聾者の生活について等

お話会では、普段の生活やお仕事のこと、聾学校時代の話や、今まで苦勞した経験、楽しかったこと等、ご希望の内容に沿って聾者にお話してもらいます。

* 聾者2人の会話を当てよう!

「あなたの仕事は何ですか?」「私は会社員です」等、聾者同士で日常会話をし、生徒たちに何を話しているか当ててもらいます。

次に、マスクをした状態で会話をします。

例えば、「あ」と「5」は同じ指文字。「朝5時に起きました」は口元が隠れていると伝わりにくいです!

* 簡単なあいさつや名称について

スクリーンに手話のイラストを映しながら、「おはよう」「こんにちは」「おやすみ」等、日常でよく使われるあいさつや、「お父さん」「お母さん」等の人や物の名称について紹介します。また、写真を見せて「これは手話でどう表現する?」と質問し、立候補者数名に自分なりの手話で答えてもらいます。



手話体験

* 生徒と聾者が即興で会話

「好きな食べ物は何ですか？」の表現がなかなか伝わらず、聾者は「すいかかな？」と解釈してしまう場面も。

「すきな」と「すいか」って口形が同じだね～！等、新たな発見もあります。

* とにかく、伝えてみよう！

2人1組のペアをつくり、講師が一方に絵を見せて、もう1人に手話（ジェスチャー）で伝えてもらいます。

正解が分からなくても「こうすれば伝わるかな？」という自分なりの手話で伝えてみましょう。

最後には講師から正解の手話を教えてもらいましょう！

* 自分の名前を覚えて、自己紹介をしてみよう！

少人数グループに分かれ、手話での自分の名前の表現方法を教えてもらうことができます。

各グループに聾者または通訳者の講師がつきます。

聾者が担当するグループでは、それぞれ名札を見せていただくとスムーズに手話を教えることができます。

★上記はあくまで実施例です。

学習内容についてご希望があれば是非ご相談ください！



～コロナ禍において安心・安全に福祉教育を実施するために～



その1 基本的な予防措置の徹底のお願い

福祉教育では、外部の講師が訪問することになります。
換気や学習前後の手洗い・うがい・手指消毒の徹底をお願いします。
また、学習に参加する方は、当日朝の検温をお願いいたします。
少しでも体調不良を感じた方がいれば、参加をご遠慮いただいておりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。
上記の予防措置は、当日従事する講師・社協職員も徹底させていただきます。

(別紙「福祉教育実施における感染防止対策チェックシート」もご確認ください)

その2 感染や濃厚接触疑い・緊急事態宣言発令の場合

学校・講師・社協のいずれかに新型コロナウイルス感染(疑い含む)や濃厚接触者認定があった場合、授業を延期(または中止)させていただきます。

また、国や県等から緊急事態宣言や外出自粛要請が発令された場合も、延期(または中止)させていただく場合がございますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

その3 講師はフェイスシールドまたはマウスシールドを着用

聾者は手話だけでなく、相手の口元からも会話を読み取ります。そのため、マスクで口元が隠れていると、相手が何を言ったのか伝わりにくいときがあります。

学習中は、聾者・通訳者ともにマスクの代わりにフェイスシールドまたはマウスシールドを着用させていただき、飛沫感染の予防に努めます。

その4 手話体験はソーシャルディスタンスの確保がしやすい!

様々な体験メニューの中でも、手話体験は感染対策が取りやすいプログラムとなっております。

口話による会話を極力減らし、十分なソーシャルディスタンスを確保した上でも、十分な学習を行うことができます。

受講者の皆様におかれましても、飛沫・接触感染の予防のため、座席位置や会話等による飛沫感染について、ご配慮いただきますようお願いいたします。